

平成21年2月6日

各位

会社名 明治機械株式会社  
代表者名 代表取締役社長 日高 正英  
(コード番号 6334 東証第2部)  
問合せ先 代表取締役副社長 高橋 豊三郎  
(TEL. 03-5295-3511)

## 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年3月期第3四半期において、下記のとおり特別損失を計上いたしますので、その概要をお知らせいたしますとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年11月7日に公表した平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の連結及び個別の通期業績予想の修正についてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生及び内容

##### (1) 投資有価証券評価損

当社及び連結子会社シンヨー株式会社は、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、評価時点の時価が簿価に比べ著しく下落しているものについて、平成21年3月期第3四半期において減損処理により、特別損失として投資有価証券評価損を個別ベースで1,085千円、連結ベースで4,978千円それぞれ計上いたします。

なお、当四半期会計期間末における投資有価証券の減損処理につきましては、四半期洗替え法を採用しているため、平成21年3月期の期末日の時価により、評価損の計上額が変動する場合、もしくは評価損を計上しない場合があります。

平成21年3月期第3四半期における投資有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成21年3月期第3四半期会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)の投資有価証券評価損の総額(=イ-ロ)	0百万円	4百万円
(イ)平成21年3月期第3四半期累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)の投資有価証券評価損の総額	1百万円	4百万円
(ロ)直前四半期(平成21年3月期第2四半期)累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)の投資有価証券評価損の総額	0百万円	0百万円

※四半期における投資有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

※当社の第3四半期末は、12月31日であります。

※「その他有価証券」で時価のあるもののうち、期末日における時価が取得価額と比べて30%以上下落した場合に著しい下落があったものとしておりますが、時価が取得価額に比べて50%以上下落した場合は、すべて減損処理を行っております。30%から50%下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B)平成20年3月期末の純資産額	7,640百万円	8,114百万円
(A/B×100)	0.0%	0.0%
(イ/B×100)	0.0%	0.0%
(C)最近5事業年度の経常利益額の平均額	47百万円	186百万円
(A/C×100)	0.0%	2.2%
(イ/C×100)	2.1%	2.2%
(D)最近5事業年度の当期純利益額の平均額	16百万円	7百万円
(A/D×100)	0.0%	57.1%
(イ/D×100)	6.3%	57.1%

※最近に終了した事業年度の経常利益額及び当期純利益額が10億円未満のため、経常利益額及び当期純利益額は、最近5事業年度の平均額としております。

(2)退職給付制度移行損失

当社は、平成21年1月1日付で適格退職年金制度を廃止し、退職給付制度の一部を確定拠出年金制度へ移行したことにより、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用し、確定拠出年金制度への移行部分について退職給付制度の一部終了の処理を行っております。

この制度移行に伴い、個別及び連結ベースで特別損失として退職給付制度移行損失10,309千円をそれぞれ計上いたします。

2. 業績予想の修正

(1)平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	24,037	544	412	25	34銭
今回修正予想(B)	23,994	420	266	△134	△1円82銭
増減額(B-A)	△43	△124	△146	△159	—
増減率(%)	△0.2	△22.8	△35.4	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年3月期)	16,780	460	172	△487	△6円63銭

(2)平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,925	159	155	128	1円74銭
今回修正予想(B)	8,452	13	14	△23	△31銭
増減額(B-A)	△473	△146	△141	△151	—
増減率(%)	△5.3	△91.8	△91.0	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年3月期)	4,886	22	41	△1,145	△15円58銭

### (3)修正の理由

#### <連 結>

##### ①売上高

売上高につきましては、産業機械関連事業では、急激な世界的景気低迷を反映した日本経済の景気後退局面が強まるにつれ、当事業を取り巻く受注環境の厳しさが顕著化しつつあり、さらに当期売上予定物件の翌期持ち越しなどにより、予想売上高を下回る見通しであります。半導体製造装置関連事業では、半導体市況の悪化の影響による受注減が続いており、これに伴い予想売上高の未達が予想されます。一方、塗装工事関連事業では、連結子会社のマンションの改修・補修工事やプラント装置等の塗装工事（海外プラントを含む）が好調に推移し、この事業での売上増加が連結売上高に寄与することが予想されますが、最終的には予想売上高に比べ若干の減収を見込んでおります。

##### ②損益(営業利益、経常利益、当期純利益)

損益面に関しましては、産業機械関連事業では、原材料価格の高騰や受注価格競争による厳しい予算を反映して、大型プラント工事をはじめとする売上物件の採算性の低下が予想されます。また、半導体製造装置関連事業では、半導体市況の悪化の影響による予想売上高の減収が見込まれます。これに加え、第3四半期において特別損失(投資有価証券評価損4百万円、退職給付制度移行損失10百万円)の計上などがあり、それぞれ減益を見込んでおります。

##### ③通期の見通し

以上の結果、連結の通期業績は、売上高23,994百万円、営業利益420百万円、経常利益266百万円、当期純損失134百万円を予想しております。

#### <個 別>

##### ①売上高

売上高につきましては、前述の「連結の業績予想の修正理由」の産業機械関連事業に関して記載したとおり、景気低迷を反映した受注価格競争の激化などによる受注環境の厳しが増したこと、また、一部売上物件の売上計上が翌期持越しになるなど、予想売上高を下回る見込であります。

##### ②損益(営業利益、経常利益、当期純利益)

損益に関しましては、原材料の高騰や受注価格競争を反映した大型プラント等の採算性の低下、ならびに退職給付制度の一部を確定拠出年金制度へ移行したことに伴い、退職給付制度移行損失10百万円を特別損失として計上するなど、それぞれ減益を予想しております。

##### ③通期の見通し

以上の結果、個別の通期業績は、売上高8,452百万円、営業利益13百万円、経常利益14百万円、当期純損失23百万円を予想しております。

(注) 上記の予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以 上